

24/10/11 連合審査会休憩後

委員長 丹羽ひろし（自民・名東区）： それでは、ただいまから経済水道委員会総務環境委員会連合審査会を再開をいたします。休憩前に横井委員の方からご発言のありました件につきまして、経済水道総務環境委員会の両正副委員長で協議をいたしました結果、秘密会の開催はしないことといたしますのでよろしく願いをいたします。それではご質疑等があればお許しをいたします。

さわだ晃一（公明・西区） もう一回先ほどの質問ですね、総務環境委員会で配られた参考資料の中黒塗りの参考資料4になるんですけども、参考資料4、3ページの最下段、日付の下の3本線がございまして、先ほど松雄副市長はおそらくという意味ですけど、元々本会議質問で使われたいわゆるこの内容と今現時点でこの資料としてお出しきたものは変わってます。というご答弁をされたんですけども、この3本線って変わってるんですか。

松雄副市長： 変わっておりません。

さわだ晃一（公明・西区）： わかりました。今ちょっと私、手持ち資料でいただいたものがあるんですけども、これを読ましていただくと団体名が出ておりますので、団体名が書いてありますけれども、仮に上から順番にABCというふうに便宜上させていただきたいと思います。この団体ABCのお名前があるということは、もう一回繰り返しになりますけれども、先ほど一部の方々と話す機会があった。一回纏めましょうということで文章が作られた、私文書を作ったのも私というご発言がありました。副市長がお会いになった方々はこの団体ABCを、なんていうんですかね代表する方々ということていいですか。

松雄副市長： 具体的には、Cの方についてはお会いしておりません。

さわだ晃一（公明・西区）： ってことは今、ごめんなさいね、Cの方は会ってないんだけど他団体ABと呼ばれる方々には代表者、代表かどうかは別だけど、代表をできるような方とはお会いになったんですね。

松雄副市長： はい、その通りでございます。

さわだ晃一（公明・西区）： もう一回ちょっと日付に戻るんですけど、これお会いしたときというのは先ほど4月以降とおっしゃったんですけども、具体的に4月中なのか、5月前半なのかそのあたりはいかがですか。

松雄副市長： 経緯でございますけれども、一番上のAっていう方とまずお会いをさせていただいてお話を進めてまいりました。その後Aっていう方から、議員がおっしゃられている2番目の方にお声掛けをいただきましてこのBっていう方にお会いいたしました。それでAとBという方のそれぞれの関係の中の職員の皆様ともあわせて意見、議論というか、意見交換が始まったということでございます。

さわだ晃一（公明・西区）： ごめんなさいね、このAの方と会ったのはいつですかってことをお聞きしています。

松雄副市長： これは4月の中旬頃だというふうに記憶しております。

さわだ晃一（公明・西区）： そうすると検証委員会の報告書で市長ヒアリングをされた先っきの話とやっぱり矛盾をしてくるんですけども。市長ヒアリング検証委員会の皆さんが行った市長ヒアリングの議事録9ページには、繰り返しになりますけれども障害者の方々との人脈が全くないパイプ人脈ですねって答えてるのは5月の30日、で今のご答弁は4月の中旬だということになるので、この段階でつまり検証委員会のヒアリングを受けていた頃は、口頭ではパイプがない人脈がないとおっしゃりながら、実は水面下で団体を代表されるというA団体の関係者ですね、代表的な方かなお会いになってた、こういうことでよろしいですね。

松雄副市長： ちょっと検証委員会のところで私はどういうふうに発言したかさっき委員がおっしゃっていただいた通りだというふうに思いますけども、先か前後ということだとそういうことになりますね。（おかしいね、どっちか）いわゆる団体の方が4月の中旬と私はお答えをいたしましたので、前後からすれば中旬に団体の代表の方に近い方とお会いをして、その後検証委員会のあれに臨んだとかそういう感じなんです。

さわだ晃一（公明・西区）： そういうことに、そうなるよね。どう考えても。この段階では団体の方と会ってただけど、今事実を確認してるだけですから。その後評価はここにいる皆さん方が下していただければいいんですけども、ということだということがわかりました。それで一旦変わろうかな。一旦終わらしましょうか。

佐藤ゆうこ（減税・東区）： すいません。手元の資料でこの黒塗り部分を黒じゃなくしたのを持っていらっしゃる方がいらっしゃる。私はもらっていないんですけども、その違いをまずちょっと教えていただけますか。黒塗りが出たら黒塗りであればいいと思いますし、黒塗りにできないから秘密会でも秘密会にしなければ黒塗りでやるんだと思うんですけど、お手元にある方とない人がいるので、それをちょっと委員長教えていただけますか。

田中里佳（民主・天白）： 今の沢田さんの質問とかでも黒塗りをベースに質問されてると私は思いますし、資料持ってる持っていないはそれぞれの議員の調べた自分の研究熱心さとか、いろんなところから色々やったことであって、自分がないからどうだこうだっていうのはちょっとお門違いだと思います。私も実も何も持ってません。

佐藤ゆうこ（減税・東区）： 今田中委員は赤松委員にお渡しをされてたのでお手元にはないと思いますけれども、情報能力があるとかないのではなくって、黒塗りで資料が出たら黒塗りでされるべきであって、この黒塗りで、質疑をしているとしてもその方の手元には黒塗りじゃないものがあるということで、この連合審査会の意図がちよっと見えないんですけども、あるならある、ないならないで統一をしていただきたいんですけど。

横井利明（自民・南区）： いやあ驚いたね。もうびっくりした。この委員会は公開されますよね。

だから当然この議論はこの黒塗りに従ってやっていくと。だけど手持ちの資料までなぜあなたが制約する権限があるですか。我々がやることは、今回この資料に基づいて、やっぱり名前を出してはいけない人たちもいるからそれほど十分配慮してやりましょうという共通のルールのためにこれがあるわけです。手持ちの資料まであなたに言われる必要は何もない。

田中里佳（民主・天白）： すいません。もうわざわざ田中議員が赤松議員に渡してたの見たの。私今日夜遅くなるから夜ご飯何するってメモかも知れんじゃないだからね。そういう憶測でさ、大体実際この黒塗りにから逸脱した質問してないでしょまだ何も。本当にもうやめて本当にそういうこと何回も、言うけど、

議事進行。

佐藤ゆうこ（減税・東区）： その手持ちの資料をとにかく言う必要がないということでしたが、先ほど、手持ちになくなって、真っ黒でわからないから秘密会議ということだったと思うんですけど、この時間、先ほどはなかったはずですよ。ないから秘密会議で明らかにしてやってくれということだったと思うんですけど、今は手元にあるということなんですが、これ同じように何かこの妨害するつもりも何もないんですけど、そのある人とない人がいるという中でその審議をするのかと。

委員長 丹羽ひろし（自民・名東区）： 佐藤委員に申し上げます。手持ち資料ということでありまして。そこまで制約をする必要はないと思いますしそれは指摘はおかしいというふうに私は思いますので、よろしくご理解をいただきたいと思っております。

さわだ晃一（公明・西区）： ちょっと休憩時間が参りましたので続けさせていただきたいと思ひます。この総務環境委員会で配られた資料ですね、資料の資料4、資料4の3ページの最下段日付の下、3本線は団体名ですと、上から順番にABCですということて進行させていたひだきたいと思ひますのでよろしくお願ひをいたひします。

まず先ほど、まずAさんにお会ひになられた、冒頭はCさんにはお会ひになられていない。これCさんにお会ひになられてないのはどういふ理由でお会ひになられてないんですか。

松雄副市長： まずAさんにお会ひしました。次にAさんのご紹介でBさんにお会ひをいたひしました。

でも最終的には、Cさんにもお会ひをしなくちゃいけないですねというよふなことをサジェスションをいたひしたもんですから、最終的にはCさんともメンバーとしてやりたいなということだったんですけれども、結局お会ひするまでには至らなかったということてござひます。

さわだ晃一（公明・西区）： そうすると最終的にはCさんにはお会ひになられてないということなのでお話をされていたのはAさんとBさんということが確認をされました。

これについてそれぞれ少し突っ込んでお聞きをしたいんですけれども、黒塗りの資料の中身はちょっと黒塗りなのでわかりませんけれども、もし私が推測するとすれば、様々な合意内容がここに書かれていたんではないかと、もしくは提案も含めていろふな提案、文書そのものは合意をしてないということなので、ザーッとあの黒塗りの部分で書かれてるんですけども、そういう提案とかいふものが書かれていたんだろうなと思ふんですけれども、そういうことて間違ひないでしようか。

松雄副市長： 中身には触れことができませんけれども、委員おっしゃる通りてござひます。

さわだ晃一（公明・西区）： 先ほど来、合意したわけではないという表現がありましたけれども、それは文章の条件が合わずに合意できなかったのか、でも合意を目指して、松雄副市長は一連の行動を起こしているわけなので何とか合意したいというふうに思ふという、そういう力が働くと思ふんですけれどもAさんは概ね合意をした。Bさんももう概ね合意をした。Cさんとはお会ひをしてない。それぞれのAさんBさんCさんのこのご提案に対する態度を教へていただけひますか。

松雄副市長： 大変難しいご質問てござひますけれども、今この文書については、確かにABと私てやりました。

合意を目指したものを1回作りましたけれども、その後それぞれAさんとBさんがお話になったかどうか私はわかりませんが私どものところにはこの文章ではなく、全く別の提

案をいただいている状況だもんですから、内容は全く違うものがAさんBさんのところから来てるといいうことでございます。

さわだ晃一（公明・西区）： ちょっと今の答弁よくわからないんですけど、てことはこの合意文章の中身とは全く関係のない提案が関係のないとは言いません、名古屋城の話なので。団体AさんからA案が、団体BさんからB案が来ていて、何となく今までの答弁の流れだとそういう人たちの話を聞きながら文章を作成したというのが今までの前提なので、今の話は全く新しい話で、A案とB案が来ていたね。それももうちょっと斟酌するとそれをガチャンと合わせて、この黒塗りの提案文書が出来たっていうならわかるんですけど、その団体Aから来た文章、団体Bから来た文章、それぞれの来た文章とこの資料で黒塗りで出されている文章は別なんですか、一緒なんですか。

松雄副市長： すいません。ちょっと議員の質問の意図がわかりませんので、もう一度だけ申しわけございません。

さわだ晃一（公明・西区）： 今のご答弁で誰が反対したのかAさんは賛成なのか、Bさんは反対なのかそれぞれの態度ね、黒塗りの内容に対する態度どうですかって聞いたら、いやそれはAさんから、それぞれから文章が来てるからということで、態度を明らかにされなかったのでそうすると、この黒塗りの文章とAさんとBさんから来た文書、別で3つあるのか、それともAさんから来た文章、Bさんから来た文章を、松雄さんとか皆さんの話し合いの中で、一応まとめたものがこの黒塗りの文書なのか、どういうことなんですかという問いです。

松雄副市長： AさんBさん、それから私といろいろお話をしながらまとめたものが、一旦まとめたものがこれでございます。これこれ。でも実際にそれぞれの団体の方々のお立場もありますし、そういうことをそれぞれのAさんとかBさんが持ち帰って、改めて検討したときにはこれでは駄目だと。やっぱり違う考え方があるという形で、今、私のところには手持ちにありますがけれども、そこで終わってるということでもありますので合意を目指したものが、だんだんだんだんこう変わっていったという今状況でございます。

さわだ晃一（公明・西区）： そうすると、Aさんは反対なんですか、賛成なんですか。

松雄副市長： この黒塗りのものに対してどこの部分がAさんが反対で、どこの部分がBさんが反対なのかについては、その後打ち合わせというか意見交換をへておりませんので、わからない状況でございます

さわだ晃一（公明・西区）： ちょっと角度を変えます。この合意文書の中に木造天守にエレベーターをつけるということが条件として付されていたのですかそうではないのです。

松雄副市長： 当然、昇降装置でありますけどもここは重要なことでありますので、内容はともかくとして、中身にこの中に含まれておりました。

さわだ晃一（公明・西区）： 含まれていた。つまりもうちょっと突っ込むとエレベーター、エレベーターなのか昇降装置なのか、ここをねいつも市長とかは混同するんですよ。エレベーター昇降装置を一緒くたにしてエレベーターってなるんですけども、ここに書いてあったのは、エレベーターをつけるので合意してくださいって書いてあったのか、上まで上がるということだけ書いてあって、エレベーターの記述はあったのかなかったのかそれ昇降装置でもいいです。それを教えてください。

松雄副市長： もちろんフリーに議論をしておりましたので、障害者の方々もできるだけ上まで、できれば最上階までその姿を見たいという思いは当然ございましたので、それは僕が消す理由はありませんので記述していたというふうに思っております。ただ昇降装置をどこまでつけるかどうかについては、いろいろやっぱりまだ確定したものがありませんので、そこはこれからどうしようかというような形にしていたんじゃないかなというふうに思います。

さわだ晃一（公明・西区）： 結局、先ほどはエレベーターの記述はあったと答弁されたんですけど、もう1回聞きますね。できる今の話だとできるだけ上まで上げる、最上階まで上げるとこの記載はあったんだけど、その方法について、エレベーターをつけるつけない昇降装置を付ける付けない、もしくは最上階までできるだけ上まで上げる手段を昇降装置によって上げる、こういう具体的大きな昇降装置並びにエレベーターの記述はあったのかなかったのか教えてください。

松雄副市長： だんだん中身に入っていってしまってるもので、慎重に答弁はしなくちゃいけないというふうには思っているんですけども、障害者の皆様はできるだけ最上階まで行って眺めを見たいという非常に強い希望がありましたのでそれを落とす理由がありませんので、ここに多分書いたというふうに記憶しております。

さわだ晃一（公明・西区）： 装置も含めて最上階まで上がると書いたということで、今答弁がありましたわかりました。わかりました。前提として、おそらくエレベーターなり昇降装置なり最上階まで上がるっていうことを書かないと、この団体A団体B団体Cの皆さんがどういう構成なのか私もわかりませんが、おそらくこれまでの議論の中身でいくと、

やっぱり納得されないんだらうな、そもそも合意文書として成り立たないんだらうなということ、推測できるんですね。

そのことを意識されて、これどういうことかということこの時点でのお辞めになられる市長さんと意見が全然違うんですよ。そのことを仮にちょっと飛んじゃいますけど、合意をしたときに簡単に言うと勝算あったんですか、仮に合意を合意もできてないけどね。合意できてないんだけど、これ仮に合意はできたとして、どういうプロセスで、もう簡単に言うと、エレベーターなんかつけないとはっきり検証委員会のヒアリングでもおっしゃってる市長さんに、どういうプロセスでもってこの合意文書を活用っていうかね、プロセスを知りたいです。この合意文書が履行できる裏付けプラン

松雄副市長： ですから今回の検証委員会でも、私どもが結局差別発言を招いてしまったのは、市長と副市長とそれから観光文化交流局と、それぞれの考え方がバラバラであったと。これが根底にありまして、私は障害者の方々のご意見を一度も聞いてないもんですから、市長に対しては全て観光文化交流局が市長にあたると、でも市長は全然駄目だということで、三者の一致ができなかったんです。

ですから、私自身が障害者の方々の意見を聞いて、私も同じレベルに立って市長に強く申し上げようというふうに意図はしておりました。

さわだ晃一（公明・西区）： そうすると、この団体の皆さんのお名前を、松雄副市長の名前で完成形としては黒塗りのこの形式で、市長に手渡すと、これは本会議のやり取りでもあったんですけれども、そういうことをなさろうと思ってたということは事実ということていいてですね。

松雄副市長： そこまではどういうやり方でやろうかっていうことまでは、行き着いておりません。

さわだ晃一（公明・西区）： そうすると、何のためにこの合意文書を作ったのかってなっちゃいますよ。

これだけ団体名があり松雄副市長ご自身の名前が並んでいて、先ほどおっしゃった通りその前段の中身には要望が書かれている。そこには、最上階まで上げるということも書かれている。

エレベーターなりなんなり昇降装置であげるということも明記をされているということは、当然今の答弁でもある通り、これを何らかの形で市長にそれを届けないと、この合意文書を作った意味がないですよ、もう一度聞きます。

この文書を最終的には市長に、この団体の方々連名でのこの文書を提出しようと、こういうお考えあったんだったんですよ。

松雄副市長： 質問の意図よくわかりました。私にはもちろんありました。

でも、三者の中で合意してそういうやり方をとるかまでは、合意ができてないということでございまして、あくまでも団体ではなくて、それぞれの個人の方と意見交換をしておりますけれども、市長と全部の団体が合意しないとなかなかうまくいかんものですから、そこはこの今回の意見交換に加わっていただいた方にお力添えをいただけないかっていうのは、個人としては思っておりましたけども、そこまで合意はできておりません。

さわだ晃一（公明・西区）： そうすると先ほど横井委員がお話になった通り、じゃあなんでこのメールが流出したんですかっていう話に戻るんですよ。ようやくここに来て、それはおそろくわかりませんよ。

団体A団体B団体Cが中川区の道端にこれポーンと落としたかどうかそれは知りませんよ、知りませんけれども、これもこっから推測になりますけど、こうした中身のこの合意案の中身もしくは、副市長さんとのやり取り、もしくは各それぞれの団体間でのやり取りに不満があったから、怒りがあったから、逆鱗に触れたから、ちょっと聞いてくださいよって、中川区の道端にポーンと投げてたかもしれない。そういうご自覚は全くなかったんですか。

これは絶対話が壊れてるなとかね、全然ご納得いただいてないなとか、だからこういう事態が引き起こされていると、私は普通に、私だけじゃなくて、皆さんそう思うと思うんですね。簡単に言うと、むかつくと、こんなひどいことやってますよって思うから関係者にこのメールを渡すわけでしょ。通報者はどなたかわかりませんが。そういう事態が今、もう引き起こっちゃってるんです。そして、こういう事態にまで発展をしている中で、このメールを作成し打ち合わせをする中で、本当にAさんBさんCさん、Cさんはお会いしてないんだけどいやちょっと合意できてませんっていうレベルじゃないと思うんです。

それがさっき横井委員が本当にまさに怒りを持ってお話されてましたけど、どこかの部分が逆鱗に触れたから、怒こっちゃったから、こういうことが起きたというふうに思いますけれども、副市長の受け止めはいかがですか。

松雄副市長： 実際に意見交換をしとるときは大変和やかで、いろいろな意見が出るというようなの関係でございましたけれども、今、沢田先生がおっしゃられたようなことが裏というかよくわかりませんが、あってそういうのが浅井先生のところに回ったのかどうかすいません。本会議で浅井議員が発言されたと質問されたということ、今、沢田議員がおっしゃられて、そうだったのかというふうに、今思うようになりました。

さわだ晃一（公明・西区）： 今思っちゃったとしたら、今思っちゃったとしたら御免なさいね。副市長がこの問題を収束することは多分できないと思います。それぐらいの感受性で物事を仮に進めていたとしたら、もういつかどこかの段階で残念ながら構想として市長に何らかを提出するといウンと手前のところで多分うまくいかないですよ。

そのことが今ははっきりわかりました。一旦これで私の方は基本的な事実確認できましたので、一旦終わります。

渡辺やすのり（自民・北区）： すいません、ちょっと先ほどですね総務環境委員会の中でですね、スポーツ市民局の方には、名古屋市情報公開条例の対象者という観点で松雄副市長がですね、浅井議員の本会議の発言は条例に反していると断言して、それに対してこれ条例違反ですかということを聞いたら、これは条例違反ではないですよと答えいただきました。同じように総務局にも安心条例の対象者という観点でお聞きして、浅井議員の本会議の発言は、条例に反していると断言されましたけれども、これは条例違反ですかと聞いたら、それも条例違反じゃないというふうに言われたんですが、あの松雄副市長はですね、今でも浅井議員の発言というのは条例違反だと思われていますか。

松雄副市長： 多分私の9月の24日のぶら下がりの発言だというふうに思います。誰が条例違反なのかと、浅井先生じゃないですか、議会も入っておりますもんというような発言のことを、今、先生がしていただいているというふうに思いますけども、昨日もスポーツ市民局の局長さん以下きていただいて、情報公開の法令のそれぞれの解釈についても、教えていただきました。

その中では議会というのは入っておりませんが、議員というのは入っていないことがはっきりわかりましたので、本当に浅井先生には本当に申し訳なく思いますし、自民党の皆様、それから議会の皆様についても、は間違っただけを言ってしまったということについては大変な問題だというふうに思っておりますので、この場で謝罪をさせていただきたいというふうに思います。本当に申し訳ございませんでした。

さわだ晃一（公明・西区）： 委員長、委員長ちょっと僕、正直言って許せないな今のは。本当にいい加減にしてもらいたいなと思います。これね、松雄さんね、あんた副市長でね、あれだけのぶら下がりでああいうことを言って、昨日じゃなくてその日のうちにわかってるでしょう。その日のうちにわかるでしょう、条例違反ではないということなんていうのは、我々だってですよ、そんなの当たり前のことですよ。あれだけの発言をされたんだから、そうでしょう。

昨日は昨日できちっと確認とったかもわからないけどそれはいいでしょう、確認を取るのは、だけどそんなの副市長さんですよそんなことわかってるんですよ。なぜもっと早く、即座に謝罪しなかったんですか。

松雄副市長： それは誠に申し訳ありません。こんな時期になってしまって、本当に申し訳ございません。

さわだ晃一（公明・西区）： だからなぜ、こんな時期になったんですか。

松雄副市長： 条例違反と間違っただけを言ったってということにつきましては、9月の24日、ぶら下がりが24日ですね、記者に24日の日にぶら下がりのときに言った後、次の日でしたか、スポーツ市民局さんも来ていただきまして、それはそういうことではないと、議員の方は条例に反してないというようなことを教えていただきまして、昨日再度スポーツ市民局さんに来ていただいて確認をして、今回こういう場がありましたので、謝罪をさせていただいておりますけれども、もっと早く浅井先生に謝罪をしなくちゃいけないのは、もうその通りだと思います。

小出昭司（自民・中川区）： わかった段階でどうしてすぐ謝罪をしなかったんですかって聞いているので、その質問に教えてください。

松雄副市長： なかなか議員とのあのコンタクトも難しいところがありまして、これは私のいけないところで申し訳ありません。

小出昭司（自民・中川区）： いえ決して難しいことではないと思います。副市長さんから連絡があれば会っていただければいいでしょうし、会えないにしても連絡ぐらいはできますよ。その努力を何故しなかったんですか。

松雄副市長： 申し訳ありません。

小出昭司（自民・中川区）： これによって浅井市議の名誉が著しく毀損されたというご認識はお持ちですか。

松雄副市長： もちろん思っておりました。本当に申し訳ないです。

小出昭司（自民・中川区）： 浅井議員への謝罪が、そして事実の発表がきちっとあなたの訂正がきちっとされないことによって、どんどんどんどん浅井議員は条例違反の恐れがある条例違反だというふうに話もどんどん変わって拡散されていく可能性があるというふうには思いませんでした。

松雄副市長： おっしゃる通りだと思います。

小出昭司（自民・中川区）： これは大きな責任があるというふうに思いますので、そのことに対してどういう責任取っていただくかご自分でよくお考えください。さらにもう一つ、同じく24日の本会議の終了後、マスコミの皆さんに対して、浅井議員の行動のせいで名古

屋城に関して計り知れない影響が出ると思う、修復できるかどうか分からないといった旨の発言をされたのは事実ですか。

松雄副市長： ぶら下がりということであればそうだと思います。

小出昭司(自民・中川区)： ぶら下がりであればってのはちょっと余分だと思うんですが、これもですね、今でもそのように思われてますか。

松雄副市長： でも今回、私は資料で全部黒塗りにいたしましたけれども、やはり出すことによって、実際の障害者の方々にも大変やっぱりご迷惑おかけすることでもありますし、そして実際に今回障害者の方からも絶対にこの文書については出して欲しくないということもいただいておりますので、全て私とその申し訳ないという認識には申し訳ありませんが、

小出昭司(自民・中川区)： いやもう本当にもっと許せない。その根源を作ったのは誰ですか。

名古屋市の方針をみんなで決めてね、それを逸脱して副市長動いたんでしょ。

その文章が逸脱したものが外に出る可能性だっていくらでもあるわけですよ。

それを情報を掴んだ浅井先生がどうして悪いんですか、一定の責任はどこにあるんですか。教えてください。名古屋市のためにやってるんですよ。変な方向に行かないようにやってるんですよ本会議で、あなたがやった方法でそのまま進んでたらどういうことになってると思いますか、そこから教えてください。

松雄副市長： あの議員、申し訳ありませんけど、私その市の方針に逸脱してこういうことをやったというような認識は持っておりません。ですから障害者の方もお会いしてほしいというふうに言ったことを、私その最後の検証委員会と報告書が出るまではできませんということは私はできません、それは。

小出昭司(自民・中川区)： いやあほんつとに、名古屋市の方針って、こんなふうには適当に理由をつけて理由をこじつけてそれで名古屋市の方針を逸脱してないなんてことよくおっしゃるなと僕は思うんですが、私はそう思いますし、多くの皆さんから今驚きの声も出てるんですが、前に座ってらっしゃる局長さんたち今聞いてくださいなんて話もありましたので、大変申し訳ないんですけど、それぞれの長の局長さん、今日お三方いらっしゃってますので、お一人ずつこの行動は市の方針に逸脱してるかしてないかお聞かせをいただきたいと思います。委員長よろしいですか。(どうぞ)

観光文化交流局長： 私がかねがね本会議でも委員会でも、検証委員会、第三者委員会による検証委員会の最終の報告書が出て、初めてその局が局の総括初めてその中で再発防止策

も講じる中で、障害者団体にそういうことを説明させていただいて、今回の当事者の方も含めてですね、謝罪をしてそれを受け入れてもらって、その上で市民にも説明した上で、合意が得られた段階で締め次次のステップに行ける再開ができるというふうに考えておりました、そのような答弁してまいりました。そこに関しましては副市長とも認識は私は一致をしているというふうに考えております。以上でございますということです。

小出昭司（自民・中川区）：　ということはどういうことですか。一致してるってことは、ごめんなさいね。

副市長がやられてることは方針に従った行動だということの認識を持ってるってことですか。

観光文化交流局長：　すいません、ちょっと省略をしてしまいました。そこに基本的な認識は副市長と市長の一致しておりますし、副市長は本会議でもそういう答弁をしております。ただ今回どういう行動したか私はわかりませんが、こういったことが明らかになったとそれは先ほど冒頭にも申し上げましたけど局が動けない中で、副市長が自分なりのネットワーク、考え方に基づいてこの段階で、ある障害者の方とお会いしたということなんじゃないかなと思っております。ただそこに関しましては冒頭申し上げたように私としましては、ちょっとこのタイミングでという形で困惑してるってそういうところでございます。

小出昭司（自民・中川区）：　なかなか言いにくいかもしれませんが、合意文書を作ってるんですからね。

ですから、出来上がってないかもしれないんだけど、それを作ろうとしてる事実はあるので、ただ単に会ったりとか、謝罪してるだけじゃないと私は思うんですが、ぜひちょっとその後お願いします。

スポーツ市民局長：　先ほどのですね、検証結果を踏まえた上でないと事業を前に進めることができないという副市長のご答弁に対しましてそれはやはり事業の進め方そのものでございますので、人権担当のスポーツ市民局からそれについて具体的になかなかお答えするのは困難ではございますけれども、検証結果の中の最後の方に、終わりに書かれております。先ほどらい議論になっておりますが、市長、副市長、それから職員との間で十分なコミュニケーションをとるということが検証結果が書かれております。もしそういうコミュニケーションが取れていない状態であったとすればですね検証の内容とは異なることは言えるのではないかと思います。

総務局長：　失礼をいたします。松雄副市長は令和6年の2月定例会において検証結果を十分に考慮した上で、信頼回復に最優先で取り組まなければならないと認識しておりますとご答弁をされております。

また検証委員会の結果を踏まえた上でないと前に進めないというふうに思っておりますというふうに答弁をされておるところでございます。そういった状況の中で今回私は、今この黒塗りの文章しか見ていないという状況でございますので、この文章を基にですね、松雄副市長が具体的に相手方の方とどんなふうですね、またどのような考え方において行動されてきたかというところを、今つぶさに具体的に今把握をしていない状況でございますので、今直ちに松雄副市長がこの事柄に対して、それを遵守していなかったかどうかというところを言及するところまで、今答えを持ち合わせていないところでございますけれども、一方でこちらの人権の方の検証委員会の方には、私も委員として参加をさせていただいております。その中で先ほどスポーツ市民局長も申し上げましたけれども、市長と副市長、そして観光文化交流局、ここの部分の意思疎通、コミュニケーション、ここの部分が不足していたということでございます。

そういった検証結果が出されておりましたので、その部分につきましては私といたしましては、しっかりとコミュニケーションをとって意思疎通ができていくということが、本来望ましかったのではないかなという思っているところでございます。

小出昭司（自民・中川区）： いいでしょう。そのそんな程度しか多分お話ができないというふうには推測してお聞きしたんですけど、もしですねこれ皆さん方の職員がこのような行動を起こしたとしたらどうなんでしょうか、職員が。局のガバナンスどうなっちゃいます。局の規律や統率、いやこれしょうがないんだと。

もう何とかこの城を作るためにこの事業をやるために市の方針はこうなってるんだけど、内内で動くしかしょうがないんだと。というようなことと一緒に、これ副市長だからいいっていうことはないですよ、副市長だから市の方針を超えて裏で動いていいってことはないですよ。裏で動く必要があるようなことなんかやることないですよ。

表でやればいいですよ。私先ほどの話は私が裏でやってきたことを浅井議員が表に出したもんだから、障害者の人や関わった人に迷惑かかる。だから修復できるかどうかかわからないとか、計り知れない影響があるって言うてるわけですよ。これすり替えなんですね。僕はよくぞ浅井議員がこのことを世の中にきちっと伝えていただいて議会で質問していただいたなというふうに私は思います。

しかしながら松雄副市長が行った行動によって、多くの障害者の方々を傷つけることにも繋がると私も思います。

それは決して浅井議員のせいではありませんので、その辺りすり替えていただくと大変私はちょっと驚きを隠せないところですけど、そのことにおいて松雄副市長、何かご意見がありましたらお答えください。

松雄副市長： 私がその勝手に障害者の方々と秘密にして行動でやったってということではなくて、私のお気持ちは浅井先生とのやり取りの本会議のところ、検証委員会の報告が出る

前にでも、人間としては早く謝りに行って、そして障害者の方とどういったらもう一回再開できるのかといったことを答弁をします。

それは佐治くんも聞いておりますので、ですから佐治さんは、ある意味で副市長の言ってることも理解できるようなことをおっしゃっていただきましたけれども、そういうある面でなかなか観光文化交流局が前に出れないと、でも障害者の方は会わない意見を聞かないないということは、それは分断に繋がるし余計不信感を募るっていうメールをいただき他のことも言われておりましたので、私が代表して障害者の方にしたということで、ここを悪いというふうには私は思っておりません。

小出昭司（自民・中川区）： 百歩譲って、方針から外れているが特別職の副市長として、内々にお詫びに行ったというような話ならまだしも、先ほど沢田委員とのやり取りをお聞きしていると、先ほどのものが合意のための文章であって、それを一生懸命議論をして構築してるじゃないですか。目的はそこにあるんじゃないですか。そうとしか思えないんですけどどう考えても、どう考えても。なんでお詫びだけして帰ってこないんですか。

なんでこんな相当エネルギー使いますよ。これだけの文章と今まで人脈もなかったわけで、その人脈の中から新たに信頼関係を構築をして、一つ一つ理解をしていただきながら、先方の要望も聞きながらこの一定の合意案をですね、作り上げていく、少なくとも第1段階においてはAさん、Bさんまではどうかかわからないですね、Aさん一番最初にご紹介を受けたご納得いただかなかったらですね、名前まで書き入れてそのような合意文をですね、作るわけがないじゃないですか。

だからお城を一刻も早くやりたい、そのためにこの文章を作って障害者のトップの方々に納得をしていただいて、その案をこれも市長とも先ほど何か相談されて進めたっていうふうにも言われてましたよね、市長ともなんか前の時間帯で、ですから市長も薄々知ってるのかなんていう気もしましたが、そうじゃないですか。何かお詫びに行ってということを強調されますけど、目的はこの合意文書を作るための目的だったんじゃないですか。

松雄副市長： ですから本会議の答弁で申し上げましたように、お詫びをしてどういったような環境が整ったら再開できるのかと言ったことを、私は団体ではなくてその個人の方にお聞きしながら、まとめることができたならまとめたいなど。でも、佐治さんのところでも最終的に検証委員会の報告が出て、自分とこの総括をして再発防止策を作ると、そしてこれからどういうふうに進めるかっていうことを作る時に、ある程度、障害者の方々のご意見を踏まえておかなければ作れないじゃないですかそれは。ですからそのところを私は団体ではなくて、いう方のところをこの穴を埋めないとなかなかうまくいかないんじゃないかなというふうに思っただけです。

さわだ晃一（公明・西区）： 今おっしゃられたのは、まずどういった環境が整ったら前に進めるか、環境整備ですという答弁と、それからご意見をまずお聞きするんです。それを踏

まえてからやりますという答弁、それからその前の時間に、副市長がおっしゃったのは私は聞いている立場ですとね、こういうこともおっしゃございました。これ間違いはないですね。

松雄副市長： 間違いありません。

さわだ晃一（公明・西区）： でねこれ私もう1回くどくど、ごめんなさいね、5月30日に検証委員会のヒアリング、これ公開されてるので皆さん興味があったら全部読んでくださいね、めちゃくちゃ面白いので。これの17ページにね、こういうことが書いてあるんです。検証委員会の松雄副市長へのヒアリング。行われたのは5月30日です。

今皆さんのお手元にある黒塗りの合意文書とされる日付みてください。令和6年9月ってなってます。

黒塗りの文書は9月ね、松雄副市長がヒアリングが行われたのは5月30日17ページ下段、委員の先生がこうやっておっしゃってるんですね時間、時間がかかるとこれからどういったスケジュール感とかそういうものも結構ずれてくると思うんですっておっしゃってるんです。このままいくとどんどん全体計画ずれますよねと。

そういうずれちゃうんですかって聞いてるんです。確認でいいですか。

そうするとね松雄副市長がこうやって答えてるんです。ちゃんと全部読みますね。

5月30日の時点ですよ。

天守のバリアフリーをどうするかだけを議論するとまた対立関係が生ずるかもしれない。

天守の問題は少し切り離して、名古屋城全体のバリアフリーの問題を先に議論してはどうですかねとおっしゃってるんですね。具体的ですね。だって今のままでは、障害者の方はスムーズに名古屋城にたどり着けませんよ。

天守の問題は天守の問題でバリアフリーを考えましょう。

もう一方でアクセスを含めたお城全体、公園全体のバリアフリーを考えませんかと言うことを検証委員会で発言をされています。こっから、たどり着けませんよ車椅子で、不自由な方に対して実質何も対策を講じていません。

これはちょっと観光文化交流局長も考えた方がいいよね、本当に総合事務所のね方も、今後ね、こっから、もし対話がもう一度できるならば、もし対話がもう一度できるならば私は障害者団体に対して、全体のバリアフリーの議論を先にやりませんかということを申し上げながら、プロセスも全部、今までの単なる意見を聞くということじゃなくて計画そのものを一緒に作るまでいこう、こうしたことは特別史跡初の試みであり先進的です。きっと市長も乗ってくると思うんですっておっしゃってるんですね。そこで質問をさせていただきます。

今申し上げた、天守の部分のバリアフリーを切り離して考える。名古屋城全体のアクセスも含めた、お城のバリアフリーをまず先に議論しましょう。これ極めて具体的なことが書いてあるんですけど黒塗りの文章の中にこうした内容が含まれているんじゃないんですか、含まれていますか含まれていませんか。

松雄副市長： その中身のことは、答弁を差し控えたいというふうに思います。でも、議員、このことにつきましては、もうずっと前の、例えば渡辺義郎先生だったかわかりませんが、2月の市会のところでも、やっぱり全体のバリアフリーについてはやらなくちゃいけないですよと、これ確か委員会でも沢田先生からもそのようなことが、私聞いてありましたので、認識はそう変わってません。

さわだ晃一（公明・西区）： 私、天守は天守。場内のバリアフリーはバリアフリーで切り分けて考えましょうなんて言った覚えありませんよ。私が言ってるのは、ここでは明確に天守のバリアフリーの例えば項目を作ります。

場内全体のバリアフリーと分けてこの要望書に、もし書いてあったとしたら、これいつかわかりますよ拒否されても、もし書いてあったとしたら既に5月30日の時点で、後に9月のこの合意文書として出してくるこのメールね黒塗りの、ここにそっくりそのまま書いてあるということになりますよ、ってことは5月30日の時点で、具体的な中身を既に構想し、もしかしたら合意文書ができてたかもしれない原案が。Aさんとのヒアリング聞き取りの中で、こうした合意文書の原案みたいなもので出てきたかもしれないこれ何を言いたいかという、あなたは今まで聞くことが最初です。ご意見を踏まえてからです。私は聞いているだけですっておっしゃったのとちょっと違うんじゃないかなって。思っちゃうんですよ。少なくともそういう疑念をいろんな資料を突き合わせると出てくるので、今小出先生がおっしゃった、もしここまでやってたとしたら、単にお詫びのレベルじゃないですよってこと僕言いたい。ここまで詰めておいて市の方針と間違っておりませんって本当におっしゃることができるとかということが私は聞きたいんです。これ多分ね多分出てくるかもしれませんよ。

松雄副市長： その中身のことは触れることはできませんけど、こういうようなお考えの方は、私だけでは当然ありませんし、障害者の方々もなかなか要するに、天守って言ってますけどそこまでなかなか車椅子へも行き着けないという方はたくさんお見えになると思いますし、事実、観光文化交流局でも今回予算をいただいて、全体のバリアフリーを進めていきたいと思いますというように確か構想計画ということをやっておりますので、何ら私の新しいアイデアってということではないと思いますけど、

さわだ晃一（公明・西区）： 新しいアイデアかどうか、もう1回聞きますね。今私が申し上げたいして新しいアイデアでもないことは、この黒塗りの文書の中には書かれていないんですね。書かれてないならいいじゃないですか、書かれてないんだから。

松雄副市長： でも内容に組み込むことになりますので、今はお答えを差し控えさせていただきますと思います。

さわだ晃一（公明・西区）： また休憩入れましょうか。

本当に今ここまで来てるということを考えると、きちんとお答えにならないと、どんどんどんどんそういうふうに拒否をした事実も積み上がっててしまうだけですので、私はこの内容が書いてあったとしたら、それは単に市の方針を逸脱した踏み込み過ぎの、簡単にやりすぎだなあと、小出先生がおっしゃったことが全くその通りだというふうに裏付けになるものですから、松雄さんに聞きます。今のこと私の指摘は全く当たらないとはっきり言ってください。

松雄副市長： でも今回、一緒に意見交換に乗っていただいた方からはいろんな内容について外に出ると、その自分の活動に支障が出るから一切公開して欲しくないというふうにおっしゃってみえるものですから。

ですから、私も今回申し訳ないんですけども、答弁を差し控えてるっていうのはそういうことでございます。

さわだ晃一（公明・西区）： 何が問われているかというのと、このアイデアが新しいとか古いとかそういうことではなくて、市の方針に反するような、これ中身に触れてませんからね、市の方針つまり一度検証結果が出て、それを局として総括をしてそこから再出発をする。この手順を逸脱しているような内容が含まれていますか、含まれていませんかということをお問われてるんです。お答えください。

松雄副市長： 私は要するに環境整備ということの一環として、こういう議論を障害者の方と現実に議論をしてきたところがありますので、そこをまとめたっていうことであって、検証っていうか逸脱した形ではないというふうに理解しているからこそ、こういうふうな形になっております。

さわだ晃一（公明・西区）： それを検証結果が出る前に書いちゃ駄目でしょって、話し合っちゃ駄目でしょってことをみんな聞いてるんですよ。今のことだと認めたことになるじゃん、いろんなアイデアがあったことを紙に書いてただけですって、それやっちゃ駄目でしょって言うてるのみんな、先に、

横井利明（自民・南区）： 先ほど杉浦総務局長の方から、副市長の発言についてね、検証結果を待ってその後、市の考え方をまとめてという云々という、松雄副市長の発言何かおっしゃってましたよね。もう一度ちょっと丁寧におっしゃっていただけないですか。

総務局長： すいません、私が申し上げましたのは、松雄副市長は令和6年2月定例会においては検証結果を十分に考慮した上で、信頼回復に最優先で取り組まなければならないと認識しておりますという答弁がございましたということと、また検証委員会の結果を踏まえた

上でないと前に進めないというふうに思っておりますというふうに答弁されたという状況がございまして、その状況の中で松雄副市長がどのような考え方において行動をされたのか、また今回資料で出ております黒塗りになっております資料の中身が、私として具体的にどういふ中身がどのように書かれているのか、松雄副市長がその障害者の方と具体的にどのようなやり取りをしたかというところが私として今、正確に把握を、ちょっと正確にという言い方はさっきしてなかったかもしれませんが私達ちょっとそこを把握をしていないところでございまして、これがですね松雄さんがその定例会において発言した内容と齟齬の行動をとったかどうかということの答えを今私は持っておりませんということを申し上げ上げさせていただいた。

それと、もう一つは人権の検証委員会、こちらの方に、私は委員として参加をしておりましたので、この検証を、委員会の報告の内容は私もつぶさに把握をしておる中でございまして、その部分につきまして先ほどスポーツ市民局長からもありましたように市長と副市長とそれから観文交流局、このそれぞれがですね、コミュニケーションをとって意思疎通を図っていくってということが必要だったという検証がなされておりますので、そういうコミュニケーション、意思疎通というものが図れていると良かったのではないかというふうに答弁をさせていただいたところでございます。

横井利明（自民・南区）： ありがとうございます。

今のお話を聞いて、あれっと思われた方いっぱいいますよね。

松雄さん自身が令和6年2月議会で、検証結果を踏まえた上でないと前に出れないと、あなたが言ったんだよね。前に出てるんじゃないですか。検証結果を踏まえる前に、ましてや先ほどの話にあったように名古屋城の木造復元に合意するなんていうね、そんなことを書いてみたりさっきの浅井さんの発言によるとね、そうすると十分前に出てるんじゃないかと、あなたの本会議の発言は、嘘だったのかというそう思いたくないよ。だけど、これ今から振り返ってみたら、間違ってますか。あなたの本会議はもう一回言うよ。検証結果を踏まえた上でないと、前に出れませんと、自ら言っているこれが一つ目。

それから今もう一つは検証結果の中で、市長、副市長、観光文化交流局の意思疎通をしっかりとやって進めなければいけないというこれ明記されている。この二つにおいてあなたの取った行動がどうだったのかってということが今問われているわけです。どのようにお考えでしょうか。

松雄副市長： 横井先生がおっしゃられたように、検証委員会の結果を踏まえた上でないと前には進めないというふうに思っておりますとこういうふうにあの答弁をしております。それは私が絶対にやってはいけないのは、これは浅井先生のところでも申しておりますように、復元検討委員会にかけるような資料や整備基本計画の取りまとめや文化庁を提出するとかいう、その資料そのものに踏み込むようなことは、私は絶対はいけないと思っておりますし、佐治くんともそういうようなことをしております。

もう一つと答弁しているんです。

とにかく私といたしますと、検証委員会の最終報告が出る前にでも直接障害者の皆様のところに行って過ちを犯しましての謝り、そしてそういうことをしながらどういうタイミングになったら納得いただけるような形で決着できるのか、そういう環境も整えたいということをお願いしておりますので、私は今のところですね、そこが逸脱をしていないというふうに思っておりますけれども、議員の先生方が逸脱をしてるということにおっしゃられますと、そこは私もしっかり考えなくちゃいけないなというふうに今思っておりますけど、逸脱しないと思っておりますけど、

横井利明（自民・南区）： あのね何のために人権の研修やってたのかっていうところが多分、松雄さん理解できてないんです。松雄さんにはね、これだけ大きな障害者の方の人権、そして尊厳を傷つけるような事態があった。

なぜこういったことが名古屋で起きてしまったのかをしっかりとみんな外部の方を入れて検証して、そしてみんなが理解した上で進もうと決めたわけですよ一旦、でしょ。違うんですか。そういうことだよ。

我々はそういう理解してますよ。二度とこんなことがあっちゃいかんから、検証委員会の結果を待って、そして市の考え方をしっかりと取りまとめて、その後市民の方々にも説明し、障害者の方々にもそれからしっかりと説明して二度とこんなことはもうやるまいと決断したんですよみんなが。普通はそっから皆さんでも決断をして、そして前へ進んでから、当然、名古屋城の整備が整備の話がね、私は進むべきだと思ってた。そこがね、そこが違ってるんですよ、みんなと。

人権に対するこの検証委員会に対する考え方が、私は残念ながら松雄さん甘かったんかなと。でも、僕たちはそのぐらい重く受け止めてましたよ。そのぐらい、ちょっとスポーツ市民局長さんに聞くけど、そのぐらい重い話だったんでしょ。少なくとも、この人権の検証っていうのは、名古屋市が失った信頼をとにかく取り戻すために、しっかりとその細部まで抉り取ってね、どこに問題があったのかを市民の方々の前にも白日のもとにさらけ出して、そして市の考え方を検証結果に基づいて取りまとめて、それから進むっていう話じゃなかったの、だからあなたが一生懸命やったんじゃないですか。市の信頼回復するために、どうなんでしょ。

スポーツ市民局長： 検証委員会が設置されたのは、先ほど今横井委員がおっしゃったようにですね、名古屋城バリアフリーの市民討論会におけるこの差別事案を受けましてこれが非常に重い事案であったということをや重く受け止めて、その原因究明とそれから再発防止に向けて、検証委員会として徹底的に究明し検証していく、直接的な原因もさることながらその遠因についても掘り下げて検証していこうということで検証されたものと認識しております。

横井利明（自民・南区）： 私同じ認識ですよ。その認識が申し訳ないけど松雄さんにはちょっと欠けてたんじゃないかな。

だからこういったことに繋がっちゃったと思うよ。

元のところが違うから、もう我々の議論と松雄さんの議論どこまでいっても平行線なんだわ。そこちょっと一回腹に落とさないで、少なくとも人権を人権について徹底的に検証してきた方々からすると、松雄さんの行動っていうのは多分全然みんな理解できないと思う。僕も理解できなかった。申し訳ないけど局の方々に聞いても、誰とは言わないけれども、やっぱり皆さんで、遺憾とはさすがにもう言わないけど、もう本当に困ってますと。みんな愕然としてますよ。そのことをやっぱり謙虚に受け止めてくださいよ。どうでしょう。

松雄副市長： 横井先生からいただいたことについてはしっかり受け止めたいと思いますけれども、一方で繰り返しこれも繰り返しになりますけれども、やっぱりメールをいただいたことですね。

ここは私は、いわゆる検証委員会の検証ですね、人権という形のところが私はどうしても重くて、「検証委員会という性質上も理解をしますけれども、話し合いの場もシャットダウンされると、私の周囲も不信を増長させるばかりです」と、「いつまで経っても平行線のままだではないでしょうか」という、この一通かもしれないけどこのメールが私には重くてしょうがないんです。

横井利明（自民・南区）： そこまで言うんなら、ごめんなさいねって申し訳なかったと名古屋市としてお詫びしますというね、こんな名古屋からも脱却しますと、徹底的に検証して、市の考え方をまとめてもう第一歩また踏み出しますと言えばよかったんです。なんでこの名古屋城の復元に合意しますなんてこんな合意文書なんかまとめとする、だから理解できないんですよ。そこがね松雄さんと違うんです。障害者の方々は、名古屋城天守閣の復元のためにこれ検証委員会やってるなんて思ってないんですよ。

あなたは多分、復元のために検証委員会やってると思ってるかもしれないね。違うんですよ。失った市の信頼を取り戻すためにやってるんです。そこが違うからこうなってる。松雄さんあなたは検証委員会は、名古屋城天守閣の復元のためにやってると思ってるんじゃないですか。もしかして、

松雄副市長： 一切、思っていません。

横井利明（自民・南区）： そうだよな、そんなことないよねいくら何でもそう思いますよ。だけど、結果だけ見るとそう見えてしまった。僕たちなんでこんなに必死になってやってるのか別に松雄さん糾弾するためにやってるわけじゃないんだ、松雄さんの行為が、障害者等、障害者の方々と名古屋市の分断をまたぶり返しちゃったんですよ。

結局は人権じゃないんです障害者の方々の人権お城のためにやってんじゃないのかと。

そうやって思われてしまったものをいや違いますと、我々議会そんな思いは全くありませんと、人権は人権で徹底的にやっていますと、城は城でももちろんやっていきますと。要するに組織ぐるみでこんなことやってるとこれ行政文書ですからねこの黒塗りのやつって、行政文書ってというのは組織の文章です、でしょ。これを、名古屋市という行政体が組織としてこんなことやってたっていうことを思われたらもう何ともなりませんから、だからそれをはっきりさせたいんです。

違いますよと、これ松雄さんが単独でやったことであって名古屋はこんな考えじゃない、議会も違う、そのことをきちんと証明して、障害者の方々の信頼を取り戻すために今やってるわけです。そこを理解してくださいよ。

松雄副市長： 今横井井先生に大変ご助言をいただいて、やはり私の行動もやっぱり少し行き過ぎているというふうに今思いました。正直、無理を重ねてきた部分も当然ありますけども、私の人権ということの捉え方が少しやっぱりメールのことに重きを置き過ぎまして、確かに今までできませんというような言葉ができればよかったかもしれません。

成田たかゆき（自民・天白区）： さっきからねメールの話が出てきてる。あなたは何かメールが全てのスタートだと言わんばかりに、何かそこに全て戻って言及されてるけどもそれ本当に事実なのか。このメールの日時を見れば、明らかにあなたからアプローチをかけてんだよ。

その後メールがこれ黒塗りになってるからよくわかんないけど、何か全てこのメールが理由だとおっしゃるけど、本当にそれが理由なの。おかしくないかこの時系列的に、どういう意味なんだ一体。3月29日にあなたがメールをして大体この種この添付資料なんて先にこの松雄副市長に対して3月31日の4時5分ときているのに、その前に3月29日にね、初めてメールいたします松雄と申しますと書いてあるんだよ。黒塗りの紹介をいただいていることを知りましたとね。何か事実関係をおかしくないですか。本当にこれが理由なのかってことだ。これが理由でスタートしたのかどうかってこと聞いているの。

今ずっと話し合われてきている話で、今情報の整理をしています。それはなぜか、私が求めた資料だから聞いている。

そしてその発端は浅井議員とのやり取りの中で、まさかあなたの口からメールが引用されるとも思ってもいなかった。その言質が取れたから、いいですか。メールが届いたからこれが始まったの。

松雄副市長： ご要求をいただいたのは参考資料3の1ページの資料だと思いますけれども、これだけ出してもわからないもんですから、あえて私が最初に出したメールも添付した方がいいんじゃないかと、ご審議をいただくためにはそういう形で添付をさせていただきました。

そして実際にいろんなことが始まったのは、先ほど沢田先生のご質問の中で、4月の上旬ぐらいからスタートいたしました、こういうお話をいたしました。
それは私にいたしますと、この観光文化交流局の紹介に対して観光文化交流の回答がですね、これではやっぱり障害者の方としては納得いかないというような回答も私のところにいただいて、現実にはメールをいただいて、この方はそれなりの相当の方でいらっしゃるですから、ちゃんとやっぱり意見を聞かないと人権の観点から、それを取り違えたと言えそうかもしれないけれども、そういうことでスタートしたものでございます。
私にとって見ますとこれが。

成田たかゆき（自民・天白区）： 原点なんですね。これのメールが来たことが、メールの返信があったということ。

でも元々は松雄副市長からアプローチをかけてるんだよ。観光文化交流局に照会の連絡があり、それに対していわゆる答えることはできない。それは今までのお話の通り、検証委員会が終わるまで方報告が終わるまで、動いてはならんという名古屋城事務所なのかな。観光文化名古屋事務所だね。答えられませんという対応をしたもんだから、それを見た副市長が老婆心ながらと言っては失礼だけど、でもそれが今回のことに至る原因なの本当に。全く僕にはつじつまが合ってこないんだけど、なんかそれは話のすり替えじゃないですか。基本的にあなた自身が主体的に動いてきたんじゃないの。私はそれすらもうこの差別から始まった。市民一人の人権を守れなかったためにこんなことまで今広がってんだよ。

いやいや人権を守ろうとしているのにまたそれを誰かにかつけて、ね、そのメール一通が来たから始まったと言わんばかりのことが、そんなことよく言えるなど。いや、首をかしげる話じゃないと思いますよ。

副市長が主体的に動いたわけじゃないと、こういうことですね。

松雄副市長： いや、私が最初にメールを入れました。

でもそれは観光文化交流局の回答に対して、やっぱり今人権のことが話題になっている中で、その回答が当該団体も含めて、そういう態度で名古屋市はいいのかというようなことが私に伝わってきたもんですから、私は本当にそうなんですかと、一度会っていただけませんかというふうに問いかけたのは事実でございます。

でもそれで、やはりちゃんと要するに意見を聞いていただかなくちゃいけないと、分断が分断を呼んでしまうというふうに回答がありましたので、これは私としては重く受け止めてこの行動の出発点にしてきたというのは私は事実でございます。

成田たかゆき（自民・天白区）： そうすると、このお一人の方が、さかのぼりその差別発言を受けた方、この方、そしてそのことを許してしまい、その日のうちに何もなかったかのように見過ごして、そしてその後に検証委員会に入った。

いいですか、このメールが来るまで副市長たるあなたは一切この方々ともしくは障害者の方とお会いにもなったこともなければ、そういうアプローチもしたことがないということを断言できますか。

松雄副市長： そんなことはありません。いろんな方にお会いをしましたし勉強会一緒にやりませんかというふうにおっしゃられました。でも回答私はしておりませんので、でもやはりこのメールをいただいたもんですから、これは本当にやらないと、どんどんどんどん深みが上がってきってしまうというふうになったということでもあります。

成田たかゆき（自民・天白区）： 僕の理解でこのメールのやり取りを見る限り、単純にね、名古屋事務所に回答を求めてのに答えてくれないだけなんだとね、答えてくれないから答えてくれればはいと、ただそのやり取りをしてるだけじゃないの。私は非常にこのメール一通だけを見ても、そんな深い話はしてると思えないよ。ごく普通なんだと思うよ。

松雄副市長： でもその方はやっぱり障害者の団体の中でも一定のやっぱり役割を果たしていただいている方でありまして、慎重に答えないかんですけれども、本来差別発言ををしてしまった方にやはりすごく近いような方、お知り合いだということも、私も知っておりましたので、何とかそういう方であれば、ちゃんとお会いをして、お話を聞かなくちゃいけないというふうに思ったということでもあります。その後この方を通じまして、この人に会っていただけませんかということもありましたので、会ってお話を進めてきたという経過でございます。

成田たかゆき（自民・天白区）： もう一つ聞きますけども、先ほど沢田委員のお話から始まっているABCと団体名が書かれている。もう一度確認するけども、この文章は今資料出されている文章は資料4ですね。

この文章は、松雄副市長が書いたものでよろしいですか。

松雄副市長： お答えいたしましたように、皆さんと意見交換をした内容を私がまとめたということでございます。

成田たかゆき（自民・天白区）： なぜでは9月空欄日となっているんでしょうか。

松雄副市長： それは9月にまとめるってということじゃなくて、役人ってというのは私もそうですね、計画ごとに日付を置いて9月、10月、11月12月というふうに追っていくようにするのが普通でありますので、まとめるってということではなくて、まとめられなくても、それはそれでしょうがないということの9月、そういう意味でございます。

成田たかゆき（自民・天白区）： ではなぜこのABCの団体なのか、団体もしくは3名の方だったんでしょうか。

松雄副市長： 私は団体といろいろなお話をするのは、私の役割を超えるというふうにならざるを得ないと思っていましたので、このAさん、Bさん、団体じゃなくて、AさんBさんとでも一定のこれまでの障害者の政策を引っ張って来られた方だもんですから、意見を聴取しても何ら差支えはないと、私のためになるということでAさんBさんとお話をして参りました。

成田たかゆき（自民・天白区）： いやいや、これ合意書なんでしょう。合意書を作るということは何か大きな目的があって、そしてあなたというお立場が動いているということは相当の信頼感を持って期待感を持って大きな山を動かしてくれるのかなって思われた方々がいるということは、ともに何か利害関係が発生しているのではないかなというそういう疑いすらも思うんだけど、それはないんでしょうか。

松雄副市長： それは全くございません。

委員長 丹羽ひろし（自民・名東区）： いいですか。ここで委員の皆様にお尋ねいたしますが、まだこの後、質疑される方、見えますか。まだありますか。

ではちょっとあの2時間半も経過しておりますので一旦ここで10分程度、10分でもいいから、短いですが。

20分程度、15にしましょうか。

では、15分程度休憩をさせていただきます、再開は6時30分からということでお願いをいたします。

では暫時休憩いたします。